

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第80号

平成24年 1・2・3月



重要文化財 伝福岡県出土品のうち宝塔形経筒(永久四年銘)・如来像/当館蔵 一名品展「珠玉の仏教美術」より一

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

～1月15日(日)

東新館

お水取り

2月11日(土・祝)～3月18日(日)

東新館

名品展

珠玉の仏たち

通期開催

なら仏像館

中国古代青銅器

通期開催

青銅器館(坂本コレクション)

珠玉の仏教美術

～3月18日(日)

西新館

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

～1月15日(日)～

冬の奈良の風物詩・春日若宮おん祭は、保延二年(一一三六)にはじまった春日大社の祭礼で、昨年十二月十七日には八七六回目が行われました。

この展覧会は、おん祭の行われる季節に合わせ、主祭神である若宮神やおん祭に関わる品々を集め、展示を通しておん祭の一端を紹介する恒例の企画です。今回はおん祭の競馬と相撲に焦点を当て、関連する作例を展示しています。



春日宮曼荼羅 個人蔵

また、おん祭を支えた春日信仰にまつわる品々も充実しており、春日信仰の広がりと同様性が見渡せる内容となっています。今回は春日大社の旧社家ゆかりの品や社家によって著された日記・記録など、旧社家の活動を伝える品々を特集しています。また、併せて地域で行われてきた春日講に関する曼荼羅なども展示しております。

この機会に奈良ゆかりの大祭、信仰について理解を深めていただければ幸いです。



七十一番職人歌合絵 東京国立博物館



皇年代記(大東家文書) 春日大社

特集展示

龍

平成二十四年の干支「辰」にちなみ、仏教美術にみる龍を表した作品を展示します。不動明王のシンボルである俱利伽羅龍や雨の神として信仰を集めた龍神、そして工芸品を飾った龍の意匠など、多彩な広がりを見せる龍の世界をお楽しみ下さい。



龍神像 薬師寺

～1月15日(日)～

特集展示

経典を写す・刻む・飾る

1月24日(火)～2月19日(日)

経典は板木を用いて摺写(印刷)されるようになるまで、人の手で書き写されてきました。そのような経巻を書写経と呼んでいます。

平安時代後期(十二世紀)には墨で書き写す以外に、金銀をふんだんに用いて経文を写した装飾経が盛んに作られ、それを納める経帙や経櫃も美しく飾られました。また経典の内容を絵画化した経絵の作品として注目される宝塔曼荼羅の宝塔は、塔の形を描くように経文が書写されたもので、これも写経のひとつとして数えることができます。さらに当時盛んに造営された経塚の出土品には、銅板に経文を刻んだ銅板経や粘土板に経文を刻んで焼締めた瓦経など、紙よりも永く形を変えないものへ経典を写した遺品がみられます。

本展示では館蔵品を中心に、寄託品も交えて十二世紀の写経の諸相をご覧いただきたいと思います。



経帙 当館



般若心経(神護寺経) 当館

特別陳列

お水取り

2月11日(土・祝)～3月18日(日)

毎年三月一日から十四日まで、東大寺三月堂でおこなわれるお水取りは、正式には修二会といひ、本尊の十一面観音に罪過を懺悔し除災招福を祈る、悔過の儀式です。天平勝宝四年(七五二)に実忠和尚が創始して以来、千二百五十年以上にわたり絶えることなく続いてきました。当館では、奈良の三月の風物詩でもあるお水取りへの理解を深めることを目的に、毎年この時期にあわせ、特別陳列「お水取り」を開催しています。

お水取りの十四日間にわたる悔過法要では、十一名からなる練行衆が二月堂に籠もります。十一名にはそれ

ぞれに役名があり、序列と分担が決まっています。このうち特に重要な役割を果たすのが、四職と呼ばれる和上・大導師・咒師・堂司です。今回の展覧会では、咒師や堂司らが手に持つて打ち鳴らす三鉦鏡(咒師鉦・堂司鉦など)、和上や大導師が参籠中に心得ておくべき事項を記した手引き書(二月堂和上日記)「大導師覚悟記」などが展示されます。

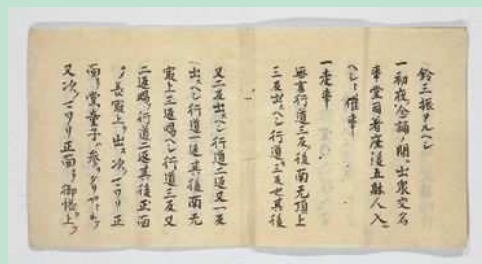
このほか、二月堂や本尊の十一面観音を描いた絵画や、二月堂伝来の経典、さらには練行衆が身に着ける袈裟や紙衣なども展示いたします。



金銅三鉦鏡(咒師鉦) 東大寺



銅三鉦鏡(堂司鉦) 東大寺



二月堂和上日記 東大寺



大導師覚悟記 東大寺



紙銀字華嚴經 当館



二月堂縁起 上巻 東大寺

特集展示

東北の古瓦

— 泉官衙遺跡を中心に —

2月28日(火)～3月18日(日)

当館には、福島県南相馬市の泉官衙遺跡等、東北地方で出土した古瓦が数多く所蔵されています。昨年、この古瓦が南相馬市博物館で展示され、初めて里帰りが実現しました。しかし、展示が終わった直後に同市は震災にみまわれ、泉官衙遺跡も津波で大きな被害を受けました。

今回の特集展示「東北の古瓦」では、同遺跡出土の瓦を展示するとともに、今も東北地方各地で続く文化財救出のための活動(文化財レスキュー)についても紹介します。



泉官衙遺跡出土軒丸瓦 当館

特別展予告

知られざる高僧の軌跡

解脱上人貞慶(仮)

4月7日(土)～5月27日(日)

今年は、解脱上人貞慶(一一五五～一二二三)の八百年遠忌の年に当たります。鎌倉時代前期に活躍した貞慶は、はじめ興福寺で学僧として活動し、後に笠置寺へ、さらに海住山寺へと移りました。釈迦如来・弥勒菩薩・観音菩薩・春日明神をとりわけ深く信仰し、由緒ある寺々の復興や法相教学の確立に大きな貢献を果たしました。この遠忌を機に、貞慶の魅力を多くの方々知っていただくため、この特別展を開催いたします。



貞慶像(部分) 海住山寺

六波羅蜜寺 伝平清盛像、その像主をめぐって

岩田茂樹（当館学芸部長補佐）



（写真1）

昭和四十七年（一九七二）のNHK大河ドラマは「新平家物語」であった。主役の平清盛を演じたのは名優仲代達矢である。数年後、初めて京都・東山の六波羅蜜寺を訪ね、平清盛像と伝える等身大の僧形坐像（写真1）に出会った。収蔵庫で拝観の際、寺の職員の方が「どうです、仲代さんに似てるでしょう？」とおっしゃったことをよく覚えている。似てるかどうかよくわからなかったが、その後浄土教の美術を勉強するうちに、清盛像であるということに疑いの念を抱くにいった。その理由について、略述してみたい。

像容をながめよう。袈裟をまとった僧形像で、胸前で経巻を広げる。胸もとを大きくはだけ、鎖骨や肋骨の浮き出た肌を見せる。視線はあらぬ方向に向けられ、唇は垂れ

気味で、生気のない、特異な相貌である。

詳述の余裕はないが、写実的なその作風から、鎌倉時代前期の作とみなすのが大勢であろう。とすると、本像を清盛像とみることはかなり困難になる。

第一に、本像を清盛の出家入道後の法名である浄海の像と記す文献は、『山州名跡志』などの江戸時代の地誌のみで、より古い史料には見いだせない。第二に、鎌倉時代前期の六波羅の地の状況である。清盛の病没は養和元年（一一八二）、二年後の寿永二年（一一八三）に平氏は都落ちを余儀なくされ、文治元年（一一八五）には壇ノ浦の合戦に敗れ、滅亡する。かつて平氏二門の邸は六波羅の地に広がっていたが、源頼朝と鎌倉幕府の覇権が確立すると、六波羅の地は彼らの手に帰した。そのような時期に、仇敵平氏の総帥であった清盛像の造立・安置がはたしてありえたであろうか。

本像の造立を平氏滅亡以前とする見方もありえなくはないかもしれないが、その場合、別の疑問が浮上する。



（写真2）

上記したように、本像は袈裟こそまとうが、胸をほだけ、僧侶としての正装には程遠い姿である。とらえどころのない表情も合わせると、太政大

臣という人臣の極位を経た人物の肖像としては、あまりにも破調といわざるをえない。

次に、南北朝時代の制作になる宮内庁三の丸尚蔵館保管の「天子摂関御影」（写真2）という絵巻がある。似絵の名手として知られた藤原隆信・信実の末裔である為信・豪信の手になるものとされるが、すでに指摘のあるように、そのなかに描かれる清盛像は、本像とは似ても似つかない顔立ちなのである。

中世に成立した『高野山往生伝』や『撰集抄』のような仏教説話集を読んでいると、ほとんど無名だが、何らかの奇瑞によつてまちがいに往生を遂げたと思はれた聖たちがしばしば登場する。そのなかに、往生、すなわち死の瞬間の姿を、あるがままに肖像画ないし肖像彫刻として写しとるという事例が散見する。ときには髪が長く伸びていたり、粗末な破れ衣の姿であったり、また舌が垂れ下がっていたりする。まったく一切の美化は行われない。

その肖像制作の目的は、あくまで礼拝結縁のためのものであった。人々は先を争って群集し、手を合わせ、拝み、その往生者の力による引導、つまり極楽浄土へ迎えられることを期待したのである。本像はそのような往生者の肖像ではなかったか。このように見るとき、本像の特異な表情や服制が謎ではなくなる。制作当時はその往生が人々の間で噂となったが、もともと身分が高いわけでも名の知られた高僧でもなかった無名の聖の像である。いつしか実名は忘れ去られ、往生の一瞬を留めた姿だけが、八百年後の今日にまで伝えられた――筆者はこのような解釈をしている。



鼎 (当館)



●舞楽面 地久 (手向山八幡宮)



○十二神将立像 辰神 (室生寺)



○十一面観音菩薩立像 (勝林寺)

出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

「大和の仏たち」第1室	
●聖観音菩薩立像	文化庁
●聖観音菩薩立像	勝林寺
●十一面観音菩薩立像	葉師寺
●十一面観音菩薩立像	勝林寺
●十一面観音菩薩立像	地福寺
●宝冠阿弥陀如来坐像	當麻寺
●准胝観音菩薩立像	個人
●広目天立像	興福寺
●多聞天立像	當館
●地藏菩薩立像	万福寺
●阿閼如来坐像	西大寺
●僧形(伝明星菩薩)立像	弘仁寺
天部立像	十市町自治会
●薬師如来立像	元興寺
●法華説相図	長谷寺
●文殊菩薩坐像	葉師寺
●十二神将立像 辰神・未神	室生寺
●梵天立像「1月31日から」	秋篠寺
特別公開「1月29日まで」	
「大和高田・弥勒寺 弥勒仏坐像」第1室	
弥勒仏坐像「1月29日まで」弥勒寺	
「肖像」第2室	
●伝義淵坐像	岡寺
●法相六祖像(伝行賀)	興福寺
●法相六祖像(伝神叡)	興福寺
●重源坐像	浄土寺
「釈迦・阿弥陀の種々相」第2室	
●阿弥陀如来立像(裸形)	浄土寺
●釈迦如来立像(清涼寺式)	當館
●出山釈迦如来立像	當館
●阿弥陀如来立像(裸形)	當館
●阿弥陀如来坐像	個人
●宝冠阿弥陀如来坐像	安樂寿院

特別公開「金剛寺 降三世明王坐像」第3室	
●降三世明王坐像	金剛寺
「中国の石仏」第4室	
●如来三尊像	當館
●如来三尊像	個人
●十一面観音菩薩立像	當館
●如来立像	個人
●如来九尊像	個人
●如来坐像	個人
「中国・朝鮮半島の金銅仏」第4室	
●誕生釈迦仏立像	個人
●二仏並坐像	當館
●供養者坐像	個人
●押出五尊仏	個人
●観音菩薩立像	個人
●力士立像	個人
●力士立像	個人
●如来立像	光明寺
●如来立像	當館
「旧帝国奈良博物館本館模型」第5室	
●表昇降口雛形	當館
●棟札	當館
「菩薩」第6室	
●菩薩立像	細見美術財団
●虚空蔵菩薩坐像	北僧坊
●弥勒菩薩立像	林小路町自治会
●弥勒菩薩立像	文化庁
●地藏菩薩立像	十市町自治会
●地藏菩薩立像	大福寺
●地藏菩薩立像	春覚寺
●地藏菩薩立像	称名寺
「明王」第7室	
●五大明王像	當館
●不動明王立像	個人
●不動明王坐像	正寿院
●愛染明王坐像	當館
「上代の金銅仏」第8室	
●誕生釈迦仏立像	正眼寺
●誕生釈迦仏立像	悟真寺
●誕生釈迦仏立像	當館

●如来立像	當館
●観音菩薩立像	金剛寺
●観音菩薩立像	観心寺
●菩薩半跏像	個人
●観音菩薩立像	神野寺
●菩薩立像	法隆寺
●菩薩立像	法起寺
「塑像と埴土」第8室	
●侍者坐像	當館
●奈良県法隆寺塔本塑像	當館
●塔本塑像断片	葉師寺
●奈良市葉師寺出土	葉師寺
●塑像断片(菩薩頭部)	當館
●奈良県明日香村	當館
●定林寺出土	當館
●塑像断片	個人
●滋賀県竜王町	個人
●雪野寺出土	個人
●方形独尊坐像埴土	當館
●多宝塔埴土	個人
●火頭形三尊埴土	當館
●伝奈良県明日香村	當館
●橘寺出土	當館
●方形三尊埴土	明日香村
●奈良県明日香村	明日香村
●川原寺裏山出土	明日香村
●六角形埴土	當館
●三重県松阪市	當館
●天華寺跡出土	當館
「護法の天部形」第9室	
●十二神将立像(6軀)	東大寺
●十二神将立像(12軀)	當館
「檀像」第10室	
●薬師如来坐像	當館
●観音菩薩立像	本山寺
●観音菩薩立像	東大寺
●釈迦如来坐像	當館
「神仏習合」第11室	
●大將軍神坐像	大將軍八神社
●大將軍神坐像	當館
●童子形神坐像	當館
●男神坐像	観音寺
●伊豆山権現立像	當館
●男女神坐像	當館

●蔵王権現立像(3軀)	大峯山寺
●金剛童子立像	當館
「動物彫刻」第12室	
●獅子	當館
●獅子	當館
●狛犬	當館
●狛犬	手向山八幡宮
●狛犬	當館
「仮面」第13室	
●舞楽面	地久・胡德樂・散手・納曾利・貴徳・新島蘇能面
●能面	笑尉・童子・若女・源氏・深井・神休・長靈・癒見
●能面	根来寺
名品展 中国古代青銅器	
青銅器館(坂本コレクション)	
中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。	
爵、觚、觶、長頸尊、觚形尊、罍、方彝、卣、罍、鼎、鬲、簋、豆、盤、匜、盃、壺、鐘、鈎、扁壺、蒜頭壺、甗、博山炉、鎮子、鏡、鐙など(当館)	
名品展 珠玉の仏教美術	
1月2日〜3月18日 西新館	
書跡	
1月2日〜22日	
生馬大明神縁起	往馬大社
生馬八幡宮縁起	往馬大社
多武峯大織冠尊像	談山神社
御破裂目録	談山神社
御破裂平癒祈願告文	談山神社
談山権現講私記	談山神社
多武峯社法楽賦山何連歌	談山神社



○八相涅槃図(観神社)



五鈷杵(当館)



蔵王権現鏡像(金峯山寺)



●金光明最勝王経(当館)

大悲経 卷第二(五月一日経 正暦寺増一阿含経・善光朱印経)	当館	華嚴経(紫紙金字)	当館	華嚴経(泉福寺経)	当館	金剛頂経・瑜伽十八会指帰(中尊寺経)	当館	▼1月24日～2月19日	●金光明最勝王経(紫紙金字)	当館	●灌頂随願往生経(石川年足願経)	当館	大般若経(中尊寺経)	当館	法華経・蝶鳥下絵 卷第一	当館	●法華経	丹生都比売神社本願寺	●聖徳太子伝暦	当館	夢窓疎石筆 円覚経偈	当館	●慈円僧正懷紙	当館	●元庵普寧墨跡	当館	絶海中津墨跡 賈島詩	慈濟院東福寺	●禅院額字 前後	▼2月21日～3月18日	●大般若涅槃経(中尊寺経)	金剛峯寺	遺跡講式	当館	涅槃講式	当館	●涅槃講式(八相涅槃図附属)	観神社	涅槃会法式	高山寺	法集経(五月一日経)	当館	●金光明最勝王経(白濟豊虫願経)	西大寺	大智度論(神護寺経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)	当館	●法華経(色紙経)
-------------------------------	----	-----------	----	-----------	----	--------------------	----	--------------	----------------	----	------------------	----	------------	----	--------------	----	------	------------	---------	----	------------	----	---------	----	---------	----	------------	--------	----------	--------------	---------------	------	------	----	------	----	----------------	-----	-------	-----	------------	----	------------------	-----	------------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------

三鈷杵 当館	組法具 一面器 当館	●宝相華唐草文華籠 神照寺	華籠 性海寺	説相箱 個人	蓮華化生文説相箱 個人	▼1月2日～2月19日	●髹漆卓 岩王寺	▼1月2日～3月18日	●阿弥陀如来鏡像 当館	地藏菩薩鏡像 当館	十一面観音懸仏 当館	●大神宮御正体 室生寺	●透彫華鬘 中尊寺金色院	●幡頭 中尊寺金色院	●種子華鬘 当館	舍利容器 当館	棺形舍利容器 当館	層塔形舍利容器及び内容器 当館	蓮台形舍利容器 当館	宝塔形舍利容器 当館	●三角五輪塔 浄土寺	●火焰宝珠形舍利容器 海龍王寺	●透彫舍利容器 西大寺	王子形水瓶 当館	仙蓋形水瓶 当館	柄香炉 当館	三鈷杵 当館	●鏡 円福寺	五鈷鈴 当館	五鈷杵 当館	割五鈷杵 当館	▼1月24日～2月19日	●首懸駄都曼荼羅厨子 当館	密観宝珠嵌装舍利厨子 当館	宝篋印塔嵌装舍利厨子 福田寺	▼1月24日～3月18日	蔵王権現鏡像 当館	●山王十社権現懸仏 当館
--------	------------	---------------	--------	--------	-------------	-------------	----------	-------------	-------------	-----------	------------	-------------	--------------	------------	----------	---------	-----------	-----------------	------------	------------	------------	-----------------	-------------	----------	----------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	--------------	---------------	---------------	----------------	--------------	-----------	--------------

十一面観音三尊懸仏 当館	王子形水瓶及び承盤 当館	●四大明王五鈷鈴 当館	独鈷杵 当館	三鈷杵 当館	●宝珠鈴・独鈷鈴・三鈷鈴(五種鈴のうち) 当館	一面器 西大寺	磬架 当館	素文磬 当館	孔雀文磬 当館	孔雀文磬 当館	●鰐口 当館	▼2月21日～3月18日	宝塔嵌装舍利厨子 個人	愛染明王彩繪舍利厨子 個人	五輪塔嵌装舍利厨子 当館	金銅装笈 個人	金銅装笈 松尾寺	金銅装笈 当館	繪画	▼1月2日～1月22日	●辟邪絵(天刑星・梅檀乾闥婆・神虫・鍾馗・毘沙門天) 当館	新羅明神像 聖護院	新羅明神像 聖護院	多武峯縁起 下之二 談山神社	生駒八幡大菩薩絵縁起 往馬大社	伊勢両宮曼荼羅 正暦寺	●生駒宮曼荼羅 当館	●生駒宮曼荼羅 往馬大社	●山王宮曼荼羅 当館	藤原鎌足像 当館	三十番神像 個人	熊野本地仏曼荼羅 文化庁	熊野本地仏曼荼羅 聖護院	●吉野曼荼羅 西大寺	役行者像 上入田区	子鳥荒神像 当館	弁才天十五童子像 専称寺
--------------	--------------	-------------	--------	--------	-------------------------	---------	-------	--------	---------	---------	--------	--------------	-------------	---------------	--------------	---------	----------	---------	----	-------------	-------------------------------	-----------	-----------	----------------	-----------------	-------------	------------	--------------	------------	----------	----------	--------------	--------------	------------	-----------	----------	--------------

天川弁才天曼荼羅 能満院
吉祥天曼荼羅(湛海筆) 宝山寺
毘沙門天像 知恩院
毘沙門天像 法隆寺
▼1月24日～2月19日
阿弥陀浄土図 法輪寺
阿弥陀八大菩薩像 松尾寺
阿弥陀如来像 極楽寺
阿弥陀五尊像 一乗寺
阿弥陀聖衆来迎図 松尾寺
阿弥陀如来像 西教寺
阿弥陀三尊来迎図 十輪寺
阿弥陀聖衆来迎図 迅雲弥陀 西教寺
阿弥陀聖衆来迎図 阿日寺
四十九化仏阿弥陀来迎図 光明寺
阿弥陀聖衆来迎図 大蔵寺
阿弥陀浄土図 当館

清海曼荼羅 聖光寺
当麻曼荼羅 西教寺
当麻曼荼羅 西来寺
観經序分義変相図 当館
覚禪鈔 阿弥陀法 勸修寺
浄土五祖絵 断簡 個人
当麻寺縁起絵巻 下巻 当麻寺
夢窓疎石像 慈濟院
無極至玄像 慈濟院
達磨図 慈濟院
▼2月21日～3月18日
●金光明最勝王經宝塔曼荼羅大長寿院 当館
●華嚴五十五所絵 家原寺
●阿彌陀三尊十六羅漢図 頼久寺
●阿彌陀三尊像 頼久寺
●十六羅漢図 頼久寺
●普賢菩薩像 一乗寺

●普賢菩薩像 当館
●普賢十羅刹女像 当館
●法華曼荼羅 下部神社
●法華経曼荼羅 当館
●扇面法華経 西教寺
●聖徳太子絵伝 個人
●天部像屏絵 東福寺
●仏涅槃図 長命寺
●仏涅槃図 正暦寺
●仏涅槃図 浄土寺
●仏涅槃図 橘寺
●阿彌陀八相成道図 大福田寺
●八相涅槃図 剣神社

◆奈良国立博物館賛助会

平成23年12月1日現在、一般会員(個人)37名、一般会員(団体)19団体、特別会員5団体、特別支援会員5団体のご入会をいただいております。新しく加入された方をご紹介します。

【特別支援会員】 有限会社 日本クリーンシステムズ 桃谷樓 様
(平成23年10月ご入会)

【一般会員(団体)】 西部日本エンタープライズ株式会社 様
(平成23年10月ご入会)

【一般会員(個人)】 細野 力哉 様 (平成23年12月ご入会)

◆キャンパスメンバーズ

平成23年12月1日現在、「キャンパスメンバーズ」の会員大学等は以下の通りです。

〈会員大学等〉

大阪成蹊大学芸術学部、大阪大学、関西大学、関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校、関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、京都伝統工芸大学校、京都文教大学・京都文教短期大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院文芸学研究科、実践女子大学・実践女子短期大学、就実大学人文科学部、帝塚山大学・帝塚山高等学校、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良産業大学・奈良文化女子短期大学・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部(五十音順)(平成23年12月1日現在)

【表紙写真解説】

重要文化財 伝福岡県出土品

平安時代 永久四年(一一一六)
総高四五・六cm

経筒は、末法の世において仏の教えを残すため、写経した経巻を地中に埋蔵する際に用意された容器である。平安後期には様々な材質や形の経筒が作られたが、本品は銅製経筒のなかでも指折りの優品に数えられる。

銅製の宝塔形経筒で、塔身・屋蓋・相輪の三部材からなる。屋蓋は宝形造で、隅木先には風鐸を吊るす。棟勾配が緩く伸びやかな様はいかにも平安時代の建築を思わせる。塔身は側面に扉を線刻し、底には円形の銅板を嵌め込んでいる。銅板の内面側には永久四年(一一一六)に僧良梨、多治宮行、高橘延国らを勧進として藤原氏の母の菩提を弔う旨の願文が針書されている。この銅板に生じた緑青の様子から二軀の仏像と経巻が経筒内に納められていたことが分かる。仏像は二軀とも銅銅鍍金の如来立像で、『法華経』見宝塔品に説くところの釈迦と多宝の二仏と推測される。当時の金銅仏の年代的定点とされる貴重な資料である。

吉澤 悟(学芸部教育室長)

● イベント ●

1月2日(月・振替休日)入館者先着100名にオリジナルグッズプレゼント

1月22日(日)奈良国立博物館落語シリーズ「第13回 まほろば寄席」午後2時～4時(午後1時30分に開場)。当館講堂にて。定員180名(全席自由)。料金は前売2,000円、当日2,500円(前売券が完売の場合、当日券の販売はありません)

2月12日(日) お水取り「講話」と「粥」の会 午前11時～午後3時30分頃。定員40名。参加費6,000円。

2月15日(水) 文化財保存修理所特別公開 午前10時～、午後1時～、午後3時～ (各回とも同内容。約60分) ※往復はがきによる事前申し込み制。はがき1枚につき1名様。応募者多数の場合は抽選。各回とも定員40名。参加費無料。

※各イベントの詳細および申込方法は、当館ホームページをご覧ください。下記へお問い合わせください。 総務課企画推進係 TEL: 0742-22-4450(月～金の9:00～17:00)

● 公開講座 ●

特別陳列 おん祭と春日信仰の美術

1月7日(土)「春日社旧社家の大東家文書と『皇年代記』」 藤原 重雄 氏(東京大学史料編纂所助教)

特別陳列 お水取り

2月11日(土・祝)「不退の行法 東大寺修二会(お水取り)」 北河原 公敬 師(華嚴宗管長・東大寺別当)

午後1時30分～3時(午後1時に開場し、入場券を配布します)。当館講堂にて。定員194名(先着順)。聴講無料

※入場の際には、各展覧会の観覧券もしくはその半券、友の会カード等をご提示ください。

● サンデートーク ●

「第三日曜日は奈良博へ」

当館では、サンデートークと称して、毎月1回、第三日曜日の午後に当館の研究員や専門家が皆さんのためにお話をしています。美術や歴史のこと、展覧会や博物館の活動など、日ごろ聞くことのできない「通」なお話を、肩肘張らずに聞くことが出来ます。当館ならではの多彩なテーマを用意して皆さんをお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

1月15日(日)「吉祥天と金光明経の美術」 谷口 耕生(当館学芸部保存修理指導室長)

2月19日(日)「脚と格狭間」 永井 洋之(当館学芸部研究員)

3月18日(日)「奈良国立博物館の近代建築—仏教美術資料研究センター(旧奈良県物産陳列所)の過去と現在—」 宮崎 幹子(当館学芸部資料室長)

各回とも午後2時～3時30分(午後1時30分に開場)。当館講堂にて。定員194名(先着順)。聴講無料

重要文化財

生駒宮曼荼羅

奈良国立博物館所蔵

絹本着色

縦105.3cm 横41.9cm

鎌倉時代(13～14世紀)

神社の景観を礼拝対象として描く画像を宮曼荼羅といい、文献上では平安時代末期(12世紀)から制作されたといわれるが、現存作例としては鎌倉時代以降に数多くの優品が残されている。まさにこの宮曼荼羅隆盛の時代に描かれたと考えられる本図は、古来神山と仰がれた生駒山の東麓に位置する生駒神社(往馬大社、奈良県生駒市)の神域を描く数少ない遺例として大変貴重なものである。

画面は、上方のなだらかな稜線をもつ生駒山を背後にして、その手前に生駒神社の景観を俯瞰した視点で描いている。中央の塀と垣で囲まれたところに伊古麻都比古・伊古麻都比売と八幡の神々を祀る春日造の七つの社殿が立ち並んでおり、その上方に浮かぶ七つの円相内には、各殿に祀られる祭神の本地仏(神々の本来の姿とされる仏菩薩)が描かれる。神仏習合が進んだ生駒神社の信仰を具体的に示すものといえよう。

目を上方に転じると、浜辺に建つ社殿から随身とともに雲に乗って生駒山の山頂に飛来する神が描かれていることに気付く。この神については、住吉神や八幡神とする説がある一方、生馬八幡宮略縁起には敦賀の氣比神とする伝承が記されるなど、まだまだ謎が多い。今回の名品展では、生馬八幡宮略縁起や生駒八幡大菩薩絵縁起、本図を室町時代に写したとされる生駒宮曼荼羅など、生駒信仰を物語る往馬大社伝来の品々も同時に展示されるので、ぜひともこの機会に謎解きをしながら生駒山に祀られる神々に思いを馳せていただきたい。

谷口 耕生(当館学芸部保存修理指導室長)

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて、12月27日から1月22日まで展示

名品展の みどころ

重要文化財

法華經(色紙經)

奈良国立博物館所蔵

色紙(斐紙) 墨書

縦24.8cm 長764.3～1078.5cm

平安時代(12世紀)



1巻ごとに料紙の色を変え書写した法華經で、8巻が完存する。巻第一は淡青、巻第三は淡緑、巻第七は淡紫といったように、微妙な色合いの美しい料紙の上に金銀箔が散らされ、

界線は金泥で引かれている。各巻で色を変えるという趣向でありながら、色味は上品におさえてあるところに、発願者の美意識がうかがえる。

色紙を用いた写経、界線や経文を金銀泥で書く写経の例は奈良時代から見られるが、平安時代にはさらに工夫を凝らした経巻が制作されるようになった。料紙に金銀箔や野毛・砂子などの装飾を加えたものや、見返や余白に金銀泥・顔料で絵を添えたものなど、様々な装飾経の遺例が見られる。

平安時代の古記録(貴族の日記)を紐解くと、こうした写経を盛んに行っている様子がわかるが、その中で本品と同じような色紙に書写された『法華經』の例をいくつか見出すことが出来る。例えば、藤原道長の娘で後一条天皇の中宮となった藤原威子(999～1036)が、万寿元年(1024)10月に開いた仏事では、琉璃の仏器などとともに、宮に納められた「色紙法華經」が御帳の中に置かれている。この時、仏事に用いる経巻は別に用意されていることから、こうした色紙経は実用品ではなく、やはり特別な供養の品として用意されたのであろう。

なお、各巻の巻末に大山権現西明院へ施入した旨の奥書があることから、伯耆国(現在の鳥取県西部)の大山寺に伝来したことがわかる。

斎木 涼子(当館学芸部研究員)

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて、2月21日から3月18日まで展示

開館日時(1月～3月)

■開館時間

午前9時30分～午後5時

〔開館時間延長日〕

- ・午後9時まで ― 2月 8 日(水) ～14日(火)
- ・午後7時まで ― 1月28日(土)、2月3日(金)
3月12日(月)
- ・午後6時まで ― 3月 1 日(木) ～11日(日)
3月13日(火)・14日(水)

※いずれも入館は、閉館の30分前まで

■休館日

毎週月曜日(月曜日が祝日や振替休日となる場合は、その翌火曜日が休館)、1月1日(日・祝)

※2月13日および3月5日・12日は、月曜日ですが開館します。

観覧料金

	一 般	大学生
個 人	500円	250円
団 体	400円	200円

※団体は20名以上です

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です

※2月3日(金)は無料観覧日で、すべての方が無料でご覧になれます



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので、最寄りの泉堂駐車場等(有料)をご利用ください。

奈良国立博物館
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ(PC用) <http://www.narahaku.go.jp/> (携帯用) <http://www.narahaku.go.jp/mobile/>

「奈良国立博物館だより」は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は90円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

